

ワールドロペットと地理学徒

進 藤 賢 一*

はじめに

地理学と「ワールドロペット」を無理やり結びつけることもないが、地理研究者から“これぞ地理学”とお誉めの言葉を頂く関係で、この紙面をお借りし、若干「ワールドロペット」の実状を記しておきたい。

「ワールドロペット」は1978年、スウェーデンのウプサラで発足したクロスカントリースキーの国際指定レースで、当初ヨーロッパを中心に9カ国で開催することで始まった。

これらの国々のなかでそれぞれ最も美しい地域を1カ所をコースに指定し、参加者が国際交流を楽しみ、冬の1日を楽しく過ごすためのレースで、順位にこだわらない大会にすることを創始者のトニーワイズらは主張した。

距離は短いコースで42km、長いものは90km、いずれも1日のみのレースを原則としているが2日間に誇る場合もある。

その後、20年間で新たに4カ国が加入し、今日では13カ国で毎年大会が催される。さらに参加希望国は多数に及んでいるが、審査待ちの状況が続いている。

大会は毎年1月中旬から3月下旬にかけ、毎週末何処かの国で開催されているが、オーストラリアのみが8月の最終土曜日に決まっている。

何年かけてもかまわないが、10カ国を制限時間内で走れば「ワールドロペットマスター」の称号とメダルが与えられ、「ワールドロペットイヤブック」に名前が記される。

13カ国全部(合計782km)を走破すれば、「スーパーマスター」として讃えられる。

世界で「ロペットマスター」を取得した人は約1000人、日本人では12人である。

制限時間は、大会運営上決めてあり、かなりゆるやかである。50kmは7時間、75kmは9時間、

90kmは12時間が基準となっている。

この大会の意義は、1つは「冬を耐えて春を待つ」から「冬を取り組んで楽しむ」こと。美しい冬の大自然との出会いで、家族、夫婦(私達は、日本で唯一の夫婦マスター)、恋人同士で走り、それぞれが一緒にゴールする姿が多く見かける。

2つは、国際交流。参加者は世界各国から集まり、数千人、大会によっては2万人に達する国民的行事にしている国もある。比較的安く、清潔で、食事の旨い宿が大会事務局から指定され、人によっては3日から1週間泊まり込んで練習などを行っているから、同宿の人々とは親しくならざるをえない。

競技選手の集まりと異なり、技術上の秘密を漏らせない理由もなければ、極度の緊張に包まれることもない。

各国の人々の風俗や習慣、考え方など文化面での違いを共有しあえる関係ができる。

3つは、クロスカントリースキーそのものが大変面白いスポーツであることだ。アルペンスキーとの違いは、ワックスワークとペース配分、クラシカルとスケーティングではワックスの掛け方が違うが、アイロンでの焼き込み方によっては面白いように滑る。距離が長いので途中給食所での飲・食料の取り方を工夫し、食べ過ぎない、走りすぎないのがコツ。

体力のない人、年寄りにはショートディスタンス競技も用意されている。

4つは、せっかく諸国巡業するのであるから、美術館や博物館、オペラやバレエ、オーケストラの鑑賞、地理学に関係のあるマチやムラの様子、名所・旧跡をつぶさにみるのもいい。興味ある地域は調査も出来よう。冬山登山や鉄道、船旅を楽しむのもいいのではないかと。

外国で知人の家を訪ねるのもいいし、現地の大

* 札幌大学文化学部

表 ワールドロペット日程表

(LONG DISTANCES)

Datum/dates	Datum/dates	Technik	Worldloppet-Rennen	Disdanz	Land
1996/97	1997/98	Techniques	Worldloppet Skiraces	Distance	Country
●* 31.8.	30.8.	FT	Australia's Ski Marathon KANGAROO HOPPET, Falls Creek, Victoria	42 km	AUS
●* 19.1.	18.1.	FT	DOLOMITENLAUF Lienz, Österreich	60 km	AUT
●* 26.1.	25.1.	FT	MARCIALONGA Moena – Cavalese, Italien	70 km	ITA
* 1.2.	31.1.	FT	KÖNIG-LUDWIG-LAUF Samstag/Saturday	55 km	GER
* 2.2.	1.2.	CL	KÖNIG-LUDWIG-LAUF Sonntag/Sunday Oberammergau, Bayern, Deutschland	55 km	
* 9.2.	8.2.	FT	SAPPORO INTERNAT. SKI MARATHON Sapporo, Japan	50 km	JPN
●* 9.2.	8.2.	CL	TARTU MARATON	65 km	EST
* 2.2.	1.2.	CL+FT	TARTU MARATON / OPEN TRAK Tartu, Estland	65 km	
* 16.2.	15.2.	FT	KESKINADA LOPPET Hull, Quebec, Canada	50 km	CDN
●* 16.2.	15.2.	FT	TRANSJURASSIENNE Lamoura – Mouthe, Frankreich	76 km	FRA
●* 22.2.	21.2.	FT	AMERICAN BIRKEBEINER Telemark – Hayward, Wisconsin, USA	52 km	USA
* 22.2.	21.2.	CL	FINLANDIA HIIHTO (CT) Samstag	75 km	FIN
* 23.2.	22.2.	FT	FINLANDIA HIIHTO (FT) Sonntag Lahti, Finland	75 km	
* 23./24.2.	22.2./23.2.	CL	OFFENE SPUR / ÖPPET SPAR	90 km	SWE
* 25.2	24.2.	FT	OFFENE SPUR / ÖPPET SPAR	90 km	
●* 2.3.	1.3.	CL	VASALOPPET Sälen – Mora, Schweden	90 km	
* 9.3.	8.3.	FT	ENGADIN SKI MARATHON Maloja – Zuoz / S-chanf, Schweiz	42 km	SUI
* 15.3.	21.3.	CL	BIRKEBEINER RENNET Rena-Lillehammer, Norwegen	58 km	NOR
FT = Freie Technik / free technique ● WORLDLOPPET CUP 1997 CL = Klassische Technik / classical technique * Stempel Worldloppet-Paßinhaber / WL passholders					

学を訪問し地理学徒と研究動向や地域の状況の説明を受け、案内を頼むのもいい。

以下、簡単に「ワールドロペット」開催13カ国の特徴を体験に基づき簡略に述べておきたい。

1. 森と湖を走り抜ける「フィンランディア・ヒーヒト75km」

このレースは、シベリウスの生まれた町ハメリナナの郊外にある巨大な氷河湖カツマヤルビ湖を

スタートして東に走り、2006年冬のオリンピックに期待をかけるスポーツのメッカ、ラハティーまでの75kmで、毎年2月下旬の土、日曜日の2日になんて行われる。

1日目はクラシカル、2日目はフリー競技で、2日間で150km走る人々もいる。

参加者は1万人を超える。コースはワールドロペットのなかでも指折り。数多くの湖、森、草原、耕地の上を走り抜けていく。時には、農家の納屋

の中を突き抜ける。ゴールでは、美しいコンパニオン達が到着者の頬にキスをし、メダルを懸けてくれる。

私の楽しみは、この地を訪れると必ずヘルシンキ大学の地理学教室にアルボ・ペルトネン教授を訪ね、街の近郊と一緒に歩くことだ。ジャーナリストのステッグ・ hogブロムの別荘に泊まることもある。

2. ワールドロペットで最長のスウェーデン「バーサロペット90km」

16世紀、グスタフバーサがスキーを操作し、このコースの農民軍を組織して敵国デンマーク軍を撃ち破り、独立を達成した史実に基づく。

スカンジナビア山脈に近いセーレンを出発し、90km 東のモウラまでダーラナ地方の美しい森や原野を走るクラシカルレース。

毎年3月の始めの日曜日に行われ、2万人近い参加者があり、この国の国民的行事で、レースの様子は終日TVで全国放送される。

長丁場だが、森のなかにスノーモービルなどで多数の応援者が繰り出し、ワックスかけや飲食品提供のボランティアを行う。

私は、11時間41分かけて暗闇のコースを走りゴールしたが、数百人の観客の割れるばかりの拍手に仰天した。

この大会に参加したのは、フィンランドのポルボ・アキレスチームに一員として、凍結したバルト海を船（シリアライン）で往復する4泊5日の旅で、このラインはその後も楽しんだが、夏の旅はいまだ未体験だ。

この国を訪れると、ストックホルムではノーベル化学賞授賞者を父にもつヘベシー・ロードマンやエーテボリ大学で地理学を専門にしているノルドストローム教授に会うのが楽しみである。

3. スカンジナビアを横断、ノルウェー「ビルクバイネルネット58km」

乱世の13世紀、殺される運命にあったハーコン王子を2人のスキー名手が背負ってリレハンメルから遠くトロントヘイムまで逃がし、後に国家を統一する史実から来ている。ビルクバイネルは白樺の皮のキャハンのことである。

クラシカルレースで、参加者はハーコン王子の重さに匹敵する5kgの荷物を背負う義務がある。（後に3.5kgに減量されている）

20カ国9000人の参加する大会であるが、280m 標高のレーナをスタートし、標高900m 地点を2回も越えて、リレハンメルの標高500m に達する過酷なレース。

山麓の針葉樹林帯から山頂の裸地地帯の温度差に対応するワックスワークが鍵を握る。

途中、子供達の応援団から暖かいウイスキーをプレゼントされたのが感動的だった。

オスロではいつも、ミュージシャンのグンヌルフ・スルエッタの家の鍵を預かり、何日も居候する。

ビーゲラン彫刻のフログネル公園やムンク美術館は憩いの場所だ。

4. ドラウ川辺りを走るオーストリア「ドロミテラウフ60km」

ドナウ川の上流に東チロル地方を流れるドラウ川がある。古い中世の宿場町リエンツを起点にこの川を下り、また街に戻るほぼラウンドコース（スタート地点とゴール地点が異なる）。

周辺は急峻なドロミテの山々がそそり立っている。

夜、迷路のような街中でせ行われるチロル地方の民族舞踊などの前夜祭が楽しい。

全く雪のない街中の小路も大会当日は雪が運び込まれ決勝地点となる。

広場に設けられた大テントは参加者がゴールしたときの臨時レストラン兼休息所、ビールも無料でどでかいソーセージがうまかった。

ドラウ川に沿ってのコースが大半を占めるが、リエンツの街中を除いて護岸工事された場所に出あわない。

よく聞いてみると、1度石垣を積み上げた箇所もあったが、いまではすべて自然に復元したのだ、という。

カビツアファミリーの経営するペンション「グレテル」は家庭的な雰囲気があり、ドイツ人とスロバキア人が投宿し毎夜コンパで盛り上げた。

5. イタリアのドロミテン山中を走る「マルチアロンガ70km」

オーストリア西部からイタリア北部に続くドロミテ山塊の中でも最も美しいモエーナ、カナツアイ、カバリエーセを結ぶ70km コースが標高1000m 以上の谷を貫いている。

この大会の特徴は、コースが比較的人家の多い地域を通過することで応援者がいたるところに繰り出していることだ。

愉快的な国民性も手伝って、大会を盛り上げる。参加者だけでなく、応援者にも若い世代がたくさん登場してくる。所々で“シンドウ、シンドウ”と名前を叫ぶ連中がいる。彼女たちはプログラムを見ながら、双眼鏡で遠くから来るスキーヤーを識別し、名前を呼ぶのである。

日本人だと分かったら、知っている限りの日本語を叫ぶ。

陽気な南国の人々の快活な一面を見ることができた。

2つ星のホテル「アンコラ」が宿であったが、フルコースのイタリア料理が毎晩出てくると、ワインが安く旨いこと、誰もが人なつっこいこと、など楽しい大会である。

6. バイエルンで開かれる「ケーニッヒ・ルードビッヒ・ラウフ55km」

ドイツでの最高峰ツークスピッツェ (2963m) の北麓の町オーバーアマガウ近郊で行われるのがこのレース。2月上旬の土、日曜日、クラシカルとスケーティングがそれぞれ55km づつ2日間行う。

近くには冬季オリンピックの開催地ガルミッシュパルテンキルヘンやロマンティック街道の南端でノイバインシュタイン城のある景勝地である。州都ミュンヘンにも近い。

この大会にも2日に渡って両レースを走る参加者が多くいる。

ビールの本場だけに受付会場、ゴールした場所には無料ビールコーナーが設けられ、飲み放題を楽しむ。

コースが比較的人里離れた場所にあるため応援者は少ないし、応援の仕方も控え目だ。ただ、一般観光客で大会に出ないで、山歩きを楽しむよう

なクロスカントリースキーヤーが多いことに驚いた。

7. 酷寒の世界・エストニアの「タルツマラソン60km」

バルト3国の1つ、エストニア第2の都市で開催される「タルツマラソン60km」は「ワールドロベット」では最も新しい加入国であるが、それ以前に30年近い国内大会を行ってきたので実績は十分だ。

大会運営もうまいし、コースも13カ国中上位にランク付けされる立派なもの。

問題は、寒さであろう。1996年2月中旬は、毎朝マイナス30度以下の寒波に襲われ大会時間が1時間半遅れた。しかし、制限時間は午後6時と変わらない。理由は“このような寒さでは誰もが一生懸命走るから問題ない”である。

もう1つ、大会事務局に英語の話せる人々が少なく若干の支障をきたしたこと。

スタート時間の午前10時半は、マイナス22度、太陽が低い位置から大地を照らして快晴だ。

クラシカルレースが義務づけられているが、最初は20人が併走、5 km からは10人、10km からは4人とコースが混雑しないよう工夫されている。

酷寒のレースであるから、耐寒製のウェア、2重の手袋、帽子と耳掛け、ブーツカバーなどが必要であった。

8. ジュラ山脈を駆け抜ける「トランスジュラシエンヌ76km」

ラモウラをスタートしてプレノマン、ラ・キューヨを経由、一部スイス領内を走り、ジュラ山脈を横切ってフィニッシュのムットまでフリースタイルの76km レース。コースに近い町はジュネーブであるが、どこから行くにしても汽車やバスを乗り継いで不便な場所である。

距離76km は「ワールドロベット」のなかでは「バーサ90km」に次いでいるが、スケーティングで行けるので得意な人は大いに楽しめる。

逸話であるが、スイス領内に入るとスイス人競技者には“ホップホップ”を連発、フランス人が来ると“スロースロー”と応援し、フランス領内の応援は逆になるという。2つの国を通過する

国際レース面白さやヨーロッパ人の国境に対する対応の仕方が楽しい。

宿の「スキースクール」の夕食は、毎夜がフランス料理のフルコースで極めて安いのが特徴だ。

9. サンモリッツを貫く氷河湖上のレース「エンガデン42km」

エンガデンに谷は標高が1800mほどの高さで多くの氷河湖がある。イタリアに近いマロヤを出発して巨大なシルバプラナ湖上、チャンプフェール湖上、サンモリッツ湖を左手に見ながら針葉樹林の丘を越えると、ベルニナ谷のポンテレーナ、これをUターンしてセセリーナ、サメーデンを経由しツオスまでの42kmのコース。

途中、左右にコルバッチェ峰(3451m)、ナイール峰(3057m)からの大きなアルペンスキー場のゲレンデを眺めながら、またアルペンスキーヤーと交錯しながら冬のサンモリッツの3月を楽しむ。

太陽の光も強く、レストランは雪上で陽光を浴びての利用者が多く、応援にはブラジャー姿の女性もいる。

コースは単調で「ワールドロペット」のなかでも最もイージーとの評価もあるが、景色の素晴らしさで疲れが癒される一方、標高の高さからくる酸素不足でそう楽なレースではない。

サンモリッツの宿「ホテル・ランドリン」は6人1室のスキーヤーズルームが安い。

10. トニー・ワイズ設計の驚異のコース「アメリカンパークバイナー52km」

ウィスコンシン州の有名なりゾート地テレマークから古い西部の街ヘイワードまでの52kmを走り抜けるレース。位置は北海道とほぼ同じ面積のスペリオル湖のやや南に当たる。

「ワールドロペット」の創始者でもあるトニーワイズが設計したもので、狭いコースでも12m幅、4人は併走できるうえ、最後の2kmの湖上滑走を除き適度なアップダウンに終始し、13カ国中最も整備され、滑り安い環境が保たれている、との評価がある。

ただし、欠点といえばヘイワードの街を除き、コースの殆どが広葉樹林帯を貫くもので、観客動員がしにくい。

この大会で面白いのは、外国人に「インターナショナルビレッジ」が宿舎として用意されていることだ。

フォードマーキュリーの販売実績では、全米屈指を誇る会社社長ボブリンクの別荘が開放され、彼の家族等が参加者のサービスに当たる。

ミネアポリスからの毎日のバス運行、コースまで練習に行く交通アクセス、買物からショー見学まで待遇が絶品だ。食事や飲みものも会費に含まれ格安である。

多彩な国々の人々との交流が楽しい宿である。

11. オタワに近いガテノー公園を回るカナダの「ケスキナダ50km」

オタワ川を挟んで北はケベック州のハル、南はオンタリオ州のオタワである。

つまり、ハルはフランス語地区、オタワは英語地区で2つの町が川で隔てられている。今日では言語紛争なるものは影を潜めているし、むしろ融和が進んでいるといってもよからう。

ハルの町に隣接して広大なガテノー公園がある。50kmラウンドコースを3つも取れそうな公園である。

この公園道路や散策路がこの大会のコース。起伏もあり、湖や河川、森林帯を駆け抜ける楽しいコースである。

ケベック州やオンタリオ州は高い山々に恵まれないのでクロスカントリースキーが国民の間に深く浸透している。スキー用品が安いからいつもここで購入しては日本に持ち帰る。

12. ボゴング山頂付近の8月を楽しむオーストラリアの「カンガルーホペット42km」

毎年8月の最終土曜日、オーストラリアはビクトリア州ボゴング山のロッキーバレー人造湖周辺を駆け巡る42kmラウンドコース。オーストラリアアルプス山脈の1つで、コジウスコ山に近い。

ワールドロペット事務所のあるマウントビューティーは桜が咲き、芝生はしっかりと緑を回復しているのにボゴング山頂付近(約2000m)には雪がある。

暖かい陽光を受け、観客のなかには雪の上に椅子を置き編物をしている老婆もいる。

宿はハウマンギャップ合宿所、招待選手など60人が宿泊できる。食事はうまいが、夕食の後かたづけは参加者の当番制だ。

国際交流のいい舞台といってよい。

レンタカーで半日も走れば、「スノーウイーズマウンテンズスキーム」のカンコバン湖、エウカンペーン湖、ジンダバイ湖に辿りつけるし、計画首都キャンベラにも近い。

13. 札幌五輪コースと白旗山を使う「札幌国際スキーマラソン50km」

日本が「ワールドロペット」に加盟したのは、この制度ができて3年目、従って今年で17回目を迎えた。

コースは、札幌市の「羊が丘展望台」をスタートし、1972年札幌オリンピック距離競技施設を一部利用、白旗山の札幌ユニバーシアード距離コースを繋ぎ、羊が丘に戻る50kmである。

ワンウェイの多い「ワールドロペット」コースのなかで数少ないラウンドウェイ。その上、長い登りやコースが狭いのには急カーブがあって難コースの1つといわれている。

白滝、丸瀬布、遠軽、上湧別をつなぐ「オホーツクスキーマラソン85km」や白金温泉から美瑛に下る「宮様スキーマラソン42km」に「ワールドロペット」大会を変更せよ、との声すらある。

参加者は50kmで千人程度。外国人の参加者が少ない大会の1つでもある。

ショートディスタンス25kmも西岡の森、自衛隊の演習地に用意されている。

おわりに

13カ国の「ワールドロペット」開催地域の特徴を、ごくごく手身近にまとめてみた。

この論稿の表題を「ワールドロペットと地理学徒」としたのは、我々常日頃旅をし、フィールドワークを行っても国境を越えた人々の内面にまで接触することは難しい。また、競技力を競う大会ではメダルや表彰台を狙う人々が集まるから技術の交換や同宿して和気あいあい自分を表現することもない。

その点、「ワールドロペット」を転戦して、様々な国々の参加者と同宿する愉しきは拔群といって

よいし、彼らの生活様式や文化に接触できる。

彼らの案内する地域を見るのもいい。同時に、外国から札幌国際スキーマラソンに参加するため日本にやってきて拙宅に泊まる人々もめっきり増えた。

アメリカ、カナダ、オーストラリアの大会は2回目、今後も年2大会のペースで再び13カ国を滑って2度目のスーパーマスターもよいのではないかと、思っているし、妻もあと2カ国でスーパーが手に届くところまできている。

ワールドロペットへの参加方法は、朝日新聞社スポーツ事業部、フインタア旅行者が詳しいが、こうした機関から「ワールドロペット年鑑」を取り寄せ、それぞれの国の大会本部にファックスでエントリー料金を添えて申し込めばよい。

宿などもリストを請求すればファックスで戻ってくる。

冬の生活を快適にするためのワールドロペット参加を地理学徒に勧める。

参考文献

- ワールドロペット事務局発行「ワールドロペットスキーレース・イヤブック'97」ドイツ、オーバーアマガウ
進藤賢一「間違いだらけのクロカン50km走」『札幌大学経済学会会報』13号、札幌大学経済学会 1994・3
進藤賢一「景観地理学・豪州の旅」『ワールドロペットはカンガルーホペットからー「リベラルアーツ」』9号、札幌大学教養部、1995・1
進藤賢一「景観地理学・北欧の旅」『バルトの真珠と北欧のベニスー「リベラルアーツ」』12号、札幌大学教養部、1995・7
進藤賢一「景観地理学・米加国境冬の旅」『ケベックとウイスコンシンー「リベラルアーツ」』12号、札幌大学教養部、1996・7
進藤賢一「憧れとときめきのワールドロペット782km」上『札幌大学経済学会会報』15号、札幌大学経済学会、1996・3
進藤賢一「憧れとときめきのワールドロペット782km」中『札幌大学経済学会会報』16号、札幌大学経済学会、1996・7
進藤賢一「憧れとときめきのワールドロペット782km」下『札幌大学経済学会会報』17号、札幌大学経済学会、1997・1